

速報

第69回中部日本高等学校演劇大会

12月23日(金)

～進め舞台の冒険者たちよ～

5校目

三重県総合文化センター・中ホール

上演作品名

零

作者名

玉村徹

上演校

福井農林高校

幕間研究

《舞台を終えて》

「いい主人公をつくり出すのが
難しかったが、悔いがない劇が
できた。見た人に、色々な風を受けと
ほしい。」

《本について》

高校にあるもうすぐ切りたおさ
しまうものをモチーフにした。
希望入となる残酷を表現した。

楽屋インタビュー

Q. あえて箱だけのセットにしたのは
なぜですか？

A. 時代をこえたり、場転々
するのね扱いやすいから。

感想ボードより

- 主人公が自分という感覚に
なりました。
- 独特な空気感にとてもムキ
になりました。考えさせら
れた劇がおもしろかったです。
- 様々な時代設定せ
主人公なしという斬新な
演劇。とても良かった。



速報係から

- 主人公が「いいのに、その人
目線で語られたのか」とも
面白く、周りの人の動きやセリフ
で、主人公がどんな動きをして
いるのか、どんな人物なのか
良くなったのでおこい。
- 「戦争」の時代の風潮
がリアルに伝わってきて、
深く考えさせられた。



担当者: 布田愛理, 大野史夏, 山崎万奈美

舞台スナッチ

フコを コソわった!!

場転

暗転を多用し好いことで

観客に一息つかせず見せるおに



フコが 苦勞した!!

さちこの目線や動きを

クロスの中で合わせる
こと。



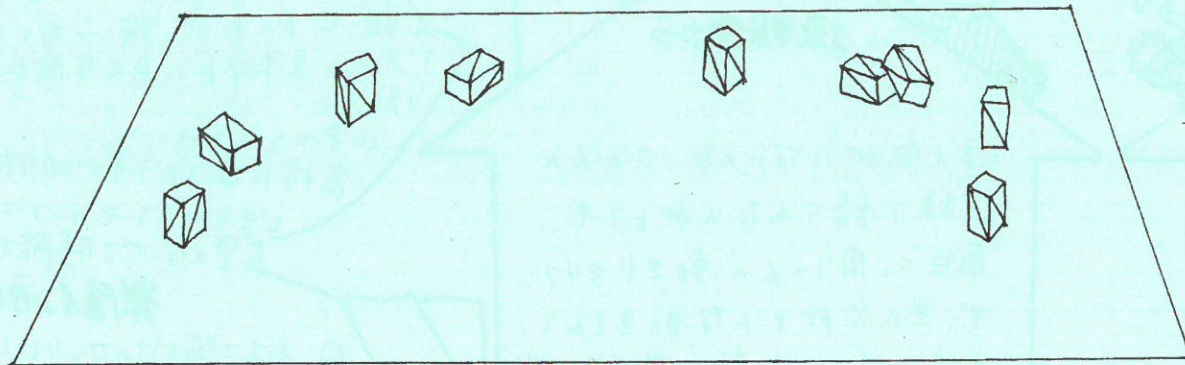
フコが 速報係の印象を 壊した!!

さちこに人をあてなからた
ところ。

いけないことで

より存在感が

感じられました。



◎速報担当 ➡ 山崎 万奈美, 大野 史夏, 布田 愛理